
バカとテストと召喚獣 波乱の日々

洋二郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストと召喚獣 波乱の日々

【Nコード】

N7241F

【作者名】

洋二郎

【あらすじ】

オリキャラを加えたバカとテストと召喚獣の小説です

オリキャラ紹介（前書き）

初めての投稿です

オリキャラ紹介

名前 神崎 裕斗

容姿 茶髪の短髪 瞳は黒

家族は父、母と暮らしている

和喜、明久、雄二、秀吉

ムツツリー二とは一年の頃からの付き合い、しかし、和喜、明久、雄二はいつも問題を起こし西村先生（鉄人）に追われている

召喚獣は黒いコートを着た姿をしている、武器は二丁拳銃点数が悪
い時は水鉄砲

名前は 水梨和喜

身長 150

体重 53

性別 男

まで帰ってこないとのこと彼女がいて性格は超が付くほどのバカ

成績は

現代文、国語が得意

他の成績は下から数えた方が早い

召喚獣は

武器は日本刀（国語の時のみ）

明久と同じ改造制服

名前 姫宮 桜

身長 168

体重 50

性別 女

髪の毛が腰まで伸びて黒色

家族

父

母

和喜の彼女ですごく可愛くて和喜を見つけたすぐに飛び付き抱きしめる甘い物が好きで和喜を子供も扱いするのも好き

成績

凄く良いが和喜に合わせてFクラス

召喚獣は

制服に弓

B W H

B 91 W 59 H 86

遅刻そして…（前書き）

頑張って書きました

遅刻そして…

和喜 「やばい！遅刻する」

明久 「急がないとまた鉄人の補習フルコースだ！」雄二 「お前から早く走れ！」

朝三人の生徒が文月学園に向かって走っていた。

キンコーンカーンコーン雄二

「間に合わなかったか！」

三人は止まり隠れ玄関の方を見るそこには鉄人こと西村教諭が立っていた

明久

「どうする鉄人がいるよ？」

和喜

「あの壁を越えるのは難しいぞ？」

雄二

「心配するな俺にいい作戦がある」

明久& a m p・和喜

「それは！」

雄二

「明久が鉄人に突っ込む！」

和喜

「わかった、明久この作戦の成功はお前次第だ！明久頑張れ！」

明久

「わかった！…てええええ！雄二も和喜も酷くない！なんで僕だけ！？」

雄二

「それはお前が一番の問題児だから」

なんの迷いもなく即答する明久

「和喜も似たようなものだよね!」

明久は隣に居た和喜に言った。

和喜

「俺は明久程酷くはない!と思う」

雄二

「まあいいじゃねーか明久覚悟決めて行つて来い骨は拾つてやる」

明久

「いやだよ!」

雄二

「しょうがないな、なら三人で一緒に行くぞ。」明久& a m p ;和喜

「「わかった」」

そして三人は一斉に玄関に向かって走つた。

鉄人

「ん、なんだ?」

ドドドドドドド音のする方を見て

鉄人

「また遅刻か!明久雄二和喜、今日は逃がさんぞ!」

鉄人が明久達捕まえようと走つて来た。

明久

「雄二どうする!」

雄二

「仕方ない二手に別れるぞ!」

明久和喜は頷き。

明久& a m p ;和喜

「「わかった!」」

そして別れようとした時、和喜と雄二はアイコンタクトをした、そして二人同人に

雄二& a m p ;和喜

「「明久すまん!」」

明久

「え、うわっ！」

雄二は明久の足をかけてこかした。

明久

「う、裏切ったな」雄二和喜！！」

和喜

「すまん俺達が逃げるために捕まってくれ」

雄二

「明久元気だな！」

明久

「裏切り者！！」

そして明久が後ろを恐る恐る見るとそこには。

鉄人

「さあ行こうか」

明久（ああ今日もいい一日になりそうだな）

その後明久の悲鳴が学園中に響いた。

教室へ（前書き）

よければ感想を書いてください

教室へ

和喜は壁にもたれ掛かり、明久を待っていた。

鉄人

「お前もいい加減逃げ出すのはやめろ」

明久「すみませんでした」

鉄人

「今度やったらただじゃ済まさないぞ」

明久

「はい」

明久はやつと鉄人の説教が終わり指導室から出て来た、すると明久は和喜に向かって泣きながら怒った。

明久

「酷いよ和喜！なんで僕一人だけ怒られなくちゃいけないのさ！」

和喜

「明久、そう怒るなよ早く教室に行こうぜ授業が始まるぞ？」

和喜は歩き出した

明久

「あ、待ってよ和喜！」

明久も急いで和喜の後を追った。

Fクラス教室前

和喜

「いい加減機嫌直せよ明久、今度ムツツリー二に頼んで姫路さんの写真買ってやるから」

明久

「本当に！！！」

和喜

「だから元気出せ」

そして和喜が教室の扉を開けようとした瞬間

桜

「カズキどこ行つてたの！！！」

和喜

「うわっ！びっくりした、桜か、脅かすなよ」

和喜はびっくりして後ろを見ると和喜の恋人である桜と親友の裕斗が立っていた

裕斗

「和喜、明久また遅刻して鉄人から逃げてたのか？」

桜

「和喜は遅刻し過ぎだよ、子供なんだから早く寝ないと起きられないよ」

そう言つて桜は和喜の頭を撫でた。

和喜

「やめる桜！頭を撫でるな！それと俺を子供扱いするのはやめろつて言つてるだろ！？」

桜

「いいじゃない和喜の方が私より背が低いし」

明久

「まあ確かに和喜は背が低いよね？」

裕斗

「背が低いから子供扱いされても仕方ない」

和喜

「背が低いゆうなああああああ！！！！！」和喜は三人に向かって叫んでいた。

異端者

オリキャラ紹介

名前神崎詩織

大人しくよく裕斗の世話をやいている裕斗の彼女
ちよつとドジなのが玉にきず

年齢17歳

身長158

体重45

誕生日4月3日

血液型O型

BWH

B85W56H80

趣味おかし作り、カラオケ

召喚獣

ピンクを基調にした服をしている、武器は槍

桜とは昔からの友達

教室前

和喜

「早く教室に入るぞ」

和喜は教室の扉を開けた、そこには凄まじい殺気を出しているクラ
スメイトがこちらを見ていた。

和喜

「な、なんだこの凄まじい殺気は？」

桜

「どうかしたの？」

まるで殺気に気付いてないかのように桜は平然としていた。

先生

「やっと来たか、お前等早く席につけホームルーム始めるぞ？」

裕斗 & 明久 & 桜

「はい」

みんな返事をして席についた。

先生

「連絡は以上だ、全員一時間目の準備ちゃんとしとけよ」

ホームルームが終わった瞬間クラスメイト全員「一部を除く」が和喜を捕まえようと襲い掛かって来た。

和喜

「お前等何するきだ！！！」

和喜は抵抗をする間もなく縛られ床に転がって叫んだそれを無視してそれを無視して一人の生徒が叫んだ

『諸君。ここはどこだ？』

『最後の審判を下す法廷だ！』

『異端者には？』

『『死の鉄槌を』』

『男とは？』

『『愛を捨て、哀に生きるもの！』』』

『宜しい。たたいまよりFクラス異端者審問会議を開始する！』

和喜

「俺が一体何をした！」

秀吉

「一体何が始まるのじゃ？」

裕斗

「和喜が何かしたらしいよ？」

裕斗と秀吉は呑気に話していた。

和喜がクラスメイトに尋問されている途中にクラスのドアが開いた、そこには

Aクラスの霧島 翔子と神崎詩織がいた

裕斗

「霧島さんに詩織、どうしたの？なんか用心？」翔子

「雄二どこ？」

翔子周りを見ながら雄二を探していた。

秀吉

「そついえば雄二をみかけんの？」

裕斗

「どこ行っただろ？」

話していると詩織が裕斗に弁当を渡した。

詩織

「朝お弁当渡すの忘れてて届けに来ました。」

裕斗

「別に昼休みに届けてくれればよかったのに」

詩織

「裕斗君に会いにきたついでですから」

そう言いながら詩織は笑った

裕斗

「ありがと詩織」

裕斗もそう言いながらニツコリ笑った。

その瞬間もの凄い殺気が裕斗に向けられた。

異端者（後書き）

よければ感想をお書き下さい

追いかけて

次の瞬間、カッター、ボールペン、マジックや様々なものが、裕斗に向かつて飛んできた

しかし裕斗はちやぶ台を盾にして全て防いだ。

裕斗

「危ないだろ！」

生徒A

「黙れ！異端者が！生徒B

「何弁当作って貰ってんだよ！」

生徒C

「貴様は極刑に値する！」

裕斗

「別に良いだろ？彼女何だから？」

全員

「……え？」「……全員が詩織の方を見る

詩織

「はい」裕斗君と付き合ってます」

その瞬間クラスメイトがさげんだ

生徒

「裕斗を捕まえる——！！！！！」

全員

「お————！！」全員が裕斗に向かつて走ってきた

裕斗

「やばい！じゃあな詩織！昼休み一緒に飯食おうぜ！」

そう言い残して走って逃げていった

桜

「裕斗君も大変だね」

桜は縛られていた和喜を助けていた。

和喜

「自業自得だな」

裕斗は廊下を全力で走っていた。

裕斗

「なんで俺が追いかけれなくちゃいけないんだ！！！」

生徒A

「チツ逃げ足の速い奴だな！」

生徒B

「上に追い込むぞ！」

全員

「了解！！！」

すると裕斗の目の前に突然ムツツリーニが飛び出して来た。

ムツツリーニ

「異端者、覚悟」

ムツツリーニはどこから出したのかスタンガンを持っていてそれを裕斗に向かって突き出して来た。

裕斗

「危な！危ないだろムツツリーニ！」

それを裕斗は紙一重で避けた、そしてムツツリーニの手を叩いてスタンガンを叩き落とした。

ムツツリーニ

「くっ！」

そしてムツツリーニが怯んだ瞬間に裕斗は走った。

裕斗（さてどうするか？上に行けば逃げ道が無くなるじゃしたに逃げるか）

そして裕斗は走り出した。

裕斗は階段を降りようと階段に行くとさっきまで縛られて和喜が立っていた。

裕斗

「和喜！？お前何してんだ！」

和喜

「俺が助かるためにお前を奴らに差し出す！」

裕斗

「お前最低だな！」

和喜

「自分の命のほうが大切なんだよ！」

そして和喜は殴り掛かって来た。

裕斗

「くっ、邪魔すんな和喜！」

裕斗は和喜の拳を受け止め和喜の足を掛けようとあしばらいをする
が和喜はジャンプして避けた。

和喜

「いい加減諦めろ！」裕斗

「いやだ！！！」

そして二人は距離を取った
生徒A

「追い詰めた！」

ムツリーニ

「もう逃がさない」

裕斗

「追い込まれた！？」

階段には和喜が廊下にはクラスメイトが居た

裕斗

「万事休すか」

和喜

「これで俺は見逃してくれるんだな？」

ムツリーニ

「良いだろう。」

そして和喜は裕斗を捕まえようと近づいて来た瞬間に裕斗は2階の窓から飛び出した。

裕斗

「とう！」

和喜

「何！」

裕斗が窓を飛び出した瞬間和喜は窓に向かって下を見た、そこには綺麗に着地を決めている裕斗がいた。

裕斗

「さすがにここまでは追って来れないだろう？」

和喜

「チッ」

和喜達は舌打ちをして階段を下りていった、だがその途中で会ってはいけない人物がいた。

和喜

「げ、鉄人！！！」

鉄人

「貴様等！一体何をしてる！2階がうるさいから来てみれば、お前等全員指導室に来い！」

そして和喜達は指導室に連行されていった。

桜

「あ、カズキやつと帰って来たの？」

桜は和喜の頭を撫でながら聞いた。

和喜

「なんで俺がこんなめに」

裕斗

「人を追いかけて回すからだ」

秀吉

「しかしまさか2階から飛び出すとはの」

明久

「ほんとに凄いよ足大丈夫なの？」

裕斗

「あれくらいの高さは大丈夫だ」

美波

「またバカやってたの？」

瑞希

「大丈夫ですか、和喜君？」

裕斗

「大丈夫だよ、姫路さん、こいつはなかなか死なないから」

和喜

「人を化け物見たいにゆうな！」

そんな会話をしていると教室のドアが開いた。

詩織

「裕斗君ご飯一緒に食べに来ました♪」

裕斗

「わかった、皆も一緒に食べる？」

桜

「いいよ」

秀吉

「了解した」

明久

「わかった」

美波

「いいわよ」

瑞希

「みんなで食べたほうが楽しいですよね」

そしてみんなで屋上に行って食べることにした。

悲劇の現場

屋上には男達の死体が転がっていた

詩織

「どうしてこんな事に」

さかのぼること数十分前

みんなは屋上に続く階段を歩いていた

裕斗

「屋上に行くのも久し振りだな」

和喜

「そうか？俺は授業サボってよく昼寝してるけど」

桜

「へー授業にいないと思ったら屋上に行ってたんだ」和喜

「あ、いやこれはその」

桜

「いいわけしない！」

和喜

「はい！ごめんなさい！」

和喜は桜に怒られながら屋上への階段を登っていた

明久

「和喜も苦労してるね」

瑞希

「なんか桜ちゃんと和喜君見てるとお母さんと子供に見えますね」

美波

「そうよね」

裕斗

「確かに」

明久

「なんか恋人同士には見えないね」

ムツツリーニ

「同感」

裕斗

「うおっ！ムツツリーニいつからいたんだ！」
ムツツリーニ

「和喜が子供てとこぐらいから」

そんな話をしている内に屋上についた

裕斗

「やっぱり春が一番だな」

詩織

「そうですね私も春が好きです」

和喜

「いいから早く飯食おうぜ」

裕斗

「そうだな」

そしてみんなが弁当を開けようとした瞬間突然開いて雄二が飛び込

んで来た

雄二

「ハアハアや、やっと逃げ切れたか」

和喜

「どうしたんだ雄二？」

明久

「また霧島さんから逃げてたの？」

雄二

「ああ 今日はずっと追いかけてきて逃げるのに時間がかかった」

裕斗

「雄二も大変だな」

明久

「そういえば雄二弁当は？」

雄二

「忘れた」

瑞希

「じゃあこれ食べますか？」

姫路さんが小さな箱を出して来た

男達全員

「ビクッ！！！！！！」雄二

「い、いや腹減ってないからいいや　そうだ明久お前どうせ弁当持
つてきてないだろお前たべろよ!」

明久

「い、いや実は朝ごはん食べたからいらないや」

雄二

「嘘だろ!お前朝塩食べたて言ってたろ!」

瑞希

「そっなんですか」

姫路さんが悲しい顔をした瞬間裕斗が箱を開けて中の物を一つ取っ
た。

裕斗

「じ、じゃあ僕が貰うよ」

秀吉

「それじゃ、わ、わしも貰おうかの」

裕斗

「ところで姫路さんこれは何かな?」

裕斗は持っている物を指差した。

瑞希

「蒸しパンです」

姫路さんは嬉しそうに言った。

裕斗&秀吉

「蒸しパン!?!」

秀吉と裕斗は手に持っている物を見た、その蒸しパンからはタコの足のようなものが飛び出していた。

裕斗

「秀吉、同時に食べるぞ」

秀吉

「わ、わかったぞ」

そして二人は同時に蒸しパン？らしきものを一口食べた。

食べた瞬間二人は倒れ込み痙攣を起こした。

瑞希

「どおしたんですか！」

裕斗は最後の力を振り絞り

裕斗

「あ、ああ、あまりの、美味しさに、か、体がびっくりしたんだ」

そうゆつと裕斗は気絶した

詩織

「裕斗君！しっかりして下さい！死んじゃダメです！」

桜

「裕斗あの料理を食べるなんて度胸あるなあ」

和喜

「確かに」

瑞希

「和喜君も一つどうぞ」

そして一つ渡された。

和喜

「お、俺も食べるのか？」

桜が近づいてきて耳元で囁いた。

桜

「瑞希を悲しませたら怒るよ」

和喜

「た、食べるしかないのか」

ムツツリーニ

「和喜のことは忘れない」

ムツツリーニがそう言った瞬間和喜がムツツリーニの腕を掴んだ。

和喜

「お前も食べるよな？」

そう言ってムツツリーニの手に蒸しパンを置いた。

ムツツリーニ

「明久あげる」

そして明久に蒸しパンを渡した。

明久

「え！僕！」

そして明久は雄二の手にのせた。

明久

「ゆ、雄二にあげる」

雄二

「お、俺に渡すな」

雄二は和喜に渡した。

和喜

「なんでまた俺に渡す！」

雄二

「もともとお前が貰ったんだろ！」

和喜

「じゃあお前食う勇氣あるか！？」

瑞希

「喧嘩しないでください、まだありますから」

そして男達全員に渡した。

残り男達の前には蒸しパンらしきものがあつた

和喜

「なんでこんな事になった」

雄二

「俺に聞くな」

明久

「食べても、し、死んだりしないよね」

ムツツリー二

「死なない……………多分」

和喜

「俺達もああなるのか」

和喜は詩織に看病されている裕斗と秀吉を見ていた、二人は時々なにかをつぶやいていた、よく聞き取れないが、天使が降りて来たとつぶやいていた、大丈夫だよな？

桜

「きつと大丈夫だよ和喜」

美波

「そつよアキ人は簡単に死なないから」

和喜&明久

「全然説得力がない」

雄二

「で、誰から食べる？」

和喜

「ここはみんな一緒だろ」

明久&ムッツ

「わかった」

そして四人は一斉に食べた

和喜

「あれ？」

雄二

「なかなか」

明久

「普通だね」

ムッツリーニ

「うん」

そう思った瞬間四人に変化が起きた

和喜

「あれ？世界が回ってる？」

そう言った瞬間和喜が倒れてそれから動かなくなった

桜

「和喜！？」

雄二

「な、なんだ頭がぼーとする」

そして雄二も倒れた

ムツツリーニ

「うつ………ばたっ」

明久

「うつ」

そして明久とムツツリーニも倒れた。

瑞希

「明久君!？」

美波

「アキ!？大丈夫!？」

明久

「だ、大丈夫、姫路さん、お、おいしかったよ、ガクッ」

そして明久も気絶した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7241f/>

バカとテストと召喚獣 波乱の日々

2010年10月9日13時24分発行